

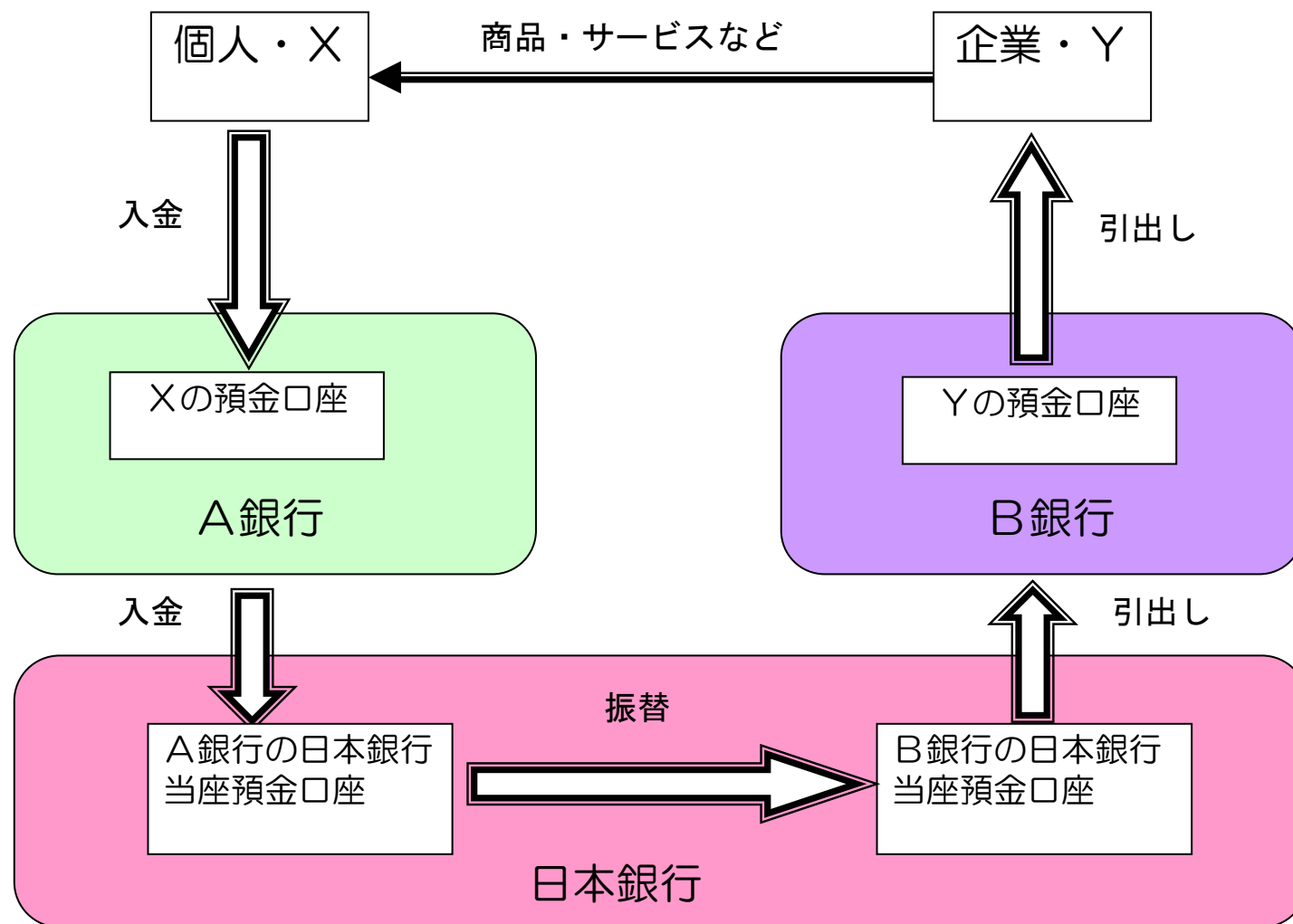
# 「技術革新と中央銀行」

(参考図表)

2008年9月2日

(図表 1)

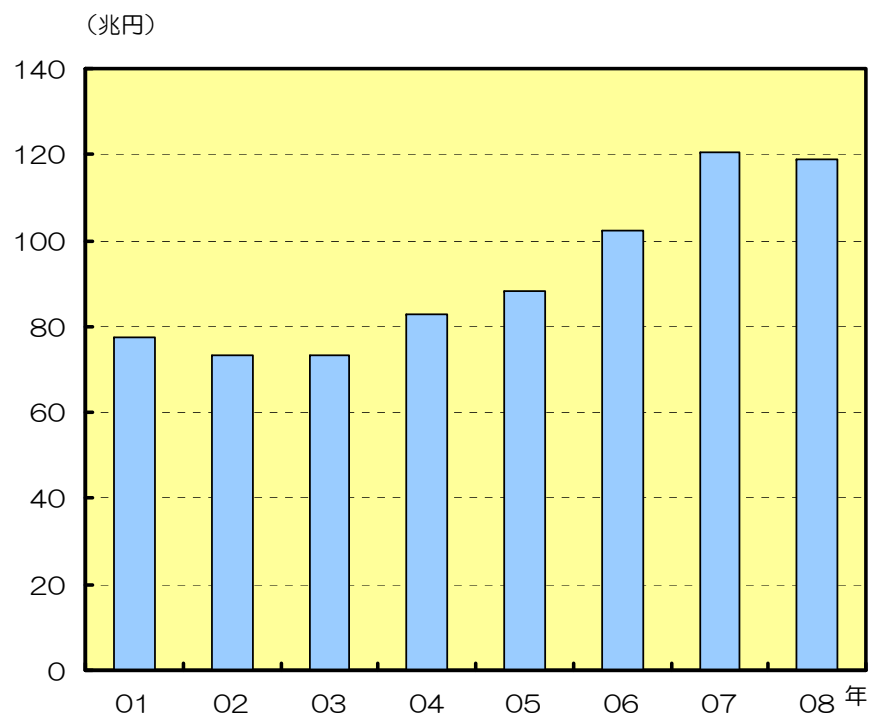
## 日本銀行当座預金と資金決済



(図表2)

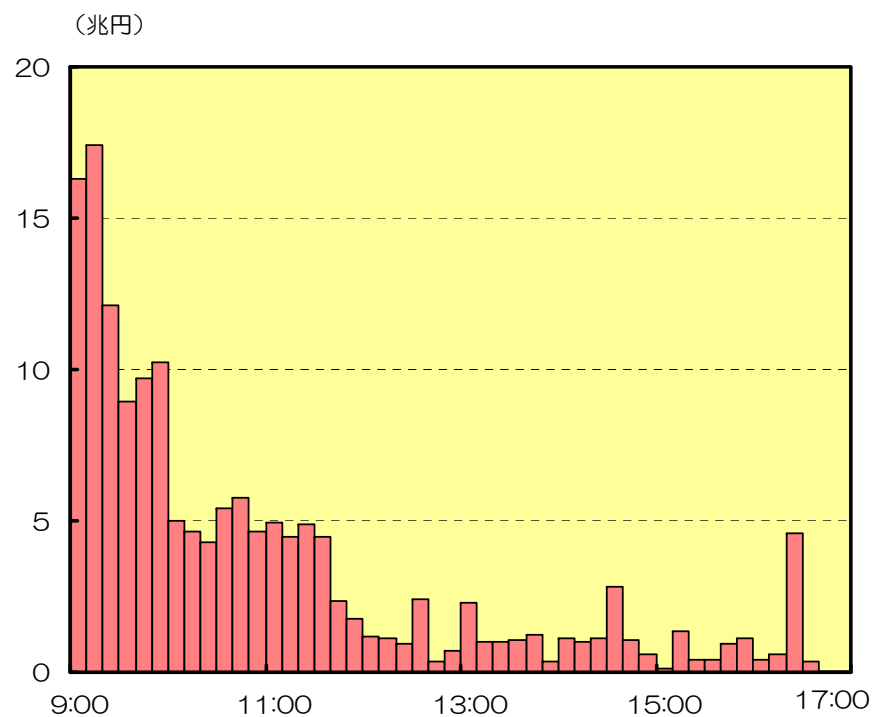
## 日本銀行当座預金を通じた決済金額

### 決済金額の推移



(注)各年における1営業日当たり決済金額の平均値  
(2008年は1~7月の平均値)

### 日中の決済金額

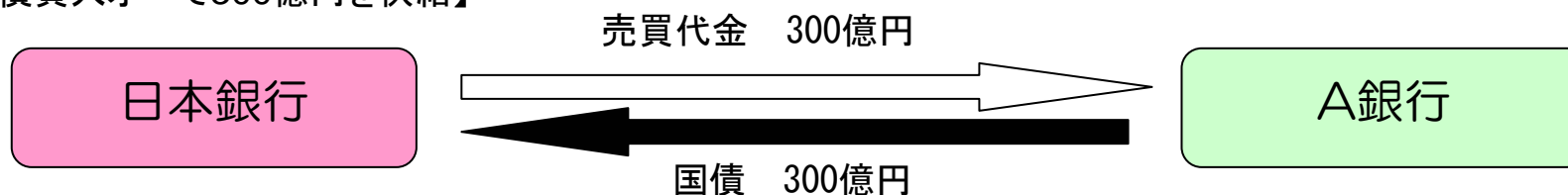


(注)10分毎の決済金額(2008年6月30日)

(図表3)

## 日本銀行による通貨の供給

【国債買入オペで300億円を供給】



日本銀行のバランスシート

<資産>	<負債>
国債 0円→300億円	日本銀行当座預金 0円→300億円

A銀行のバランスシート

<資産>	<負債>
日本銀行当座預金 0円→300億円	
国債 300億円→0円	

【その後、A銀行が日本銀行当座預金から100億円の現金を引き出した場合】

日本銀行のバランスシート

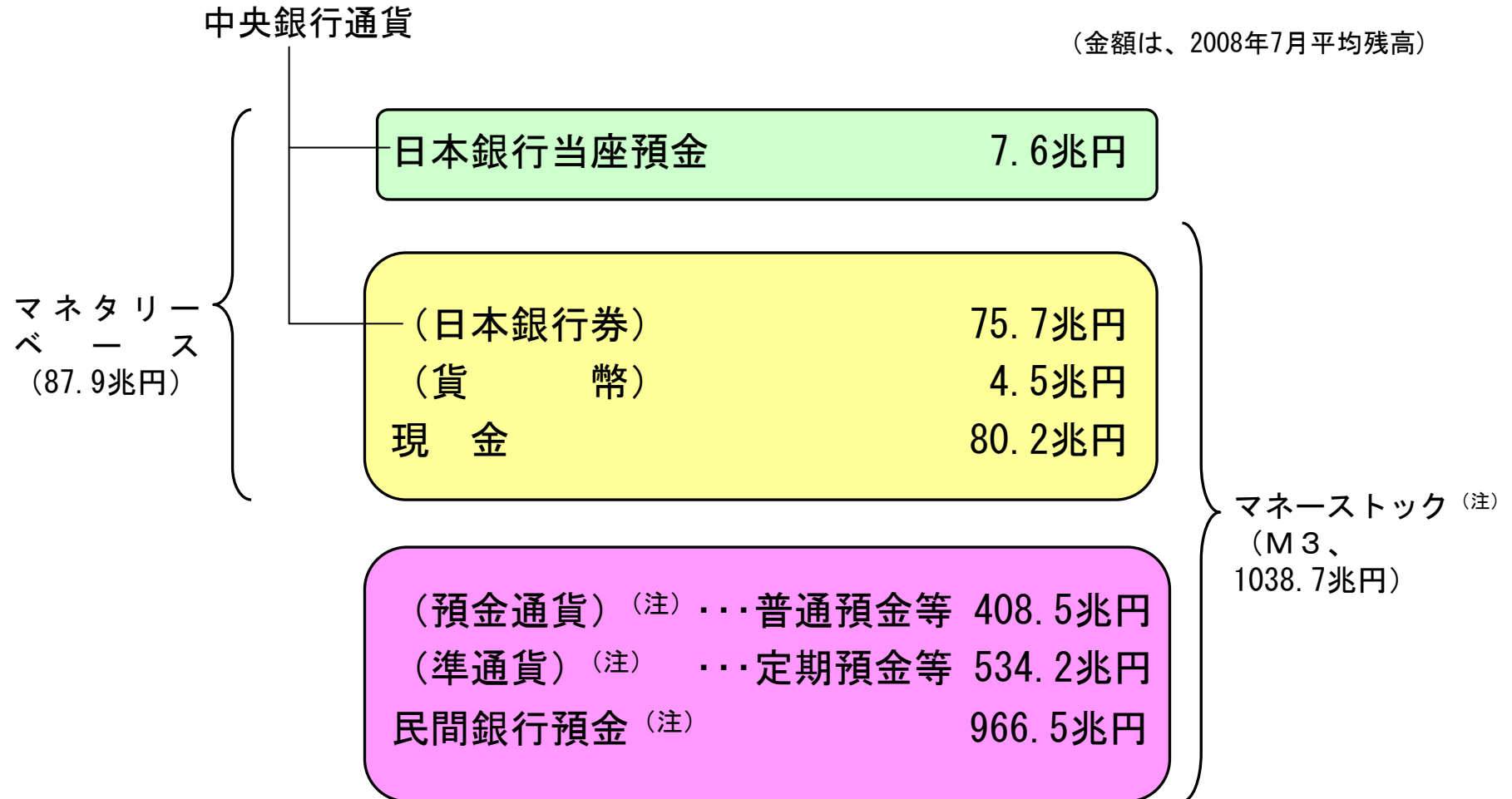
<資産>	<負債>
国債 300億円	銀行券 0円→100億円
	日本銀行当座預金 300億円→200億円

A銀行のバランスシート

<資産>	<負債>
銀行券 0円→100億円	
日本銀行当座預金 300億円→200億円	
国債 0円	

(図表 4)

## 「通貨」の分類



【参考】日本の名目GDP：515兆円（2007年度）

(注) 金融機関・中央政府の保有分を含まない。

# 銀行券の新たな偽造防止技術

(図表5)

— 一万円券に施されている偽造防止技術 —

## 特殊発光インキ

表の印章(日本銀行総裁印)に紫外線をあてるとオレンジ色に光るほか、地紋の一部が黄緑色に発光します。



## 深凹版印刷

図柄は、従来のお札よりもインキが表面に盛り上がるように印刷されています。



## ホログラム

角度を変えると、画像の色や模様が変わって見えます。



## 潜像模様

お札を傾けると、表面左下に「10000」の文字が、裏面右上に「NIPPON」の文字が浮び上がります。



## パールインキ

お札を傾けると、左右の余白部にピンク色を帯びたパール光沢のある半透明な模様が浮び上がります。



## すき入れバーパターン

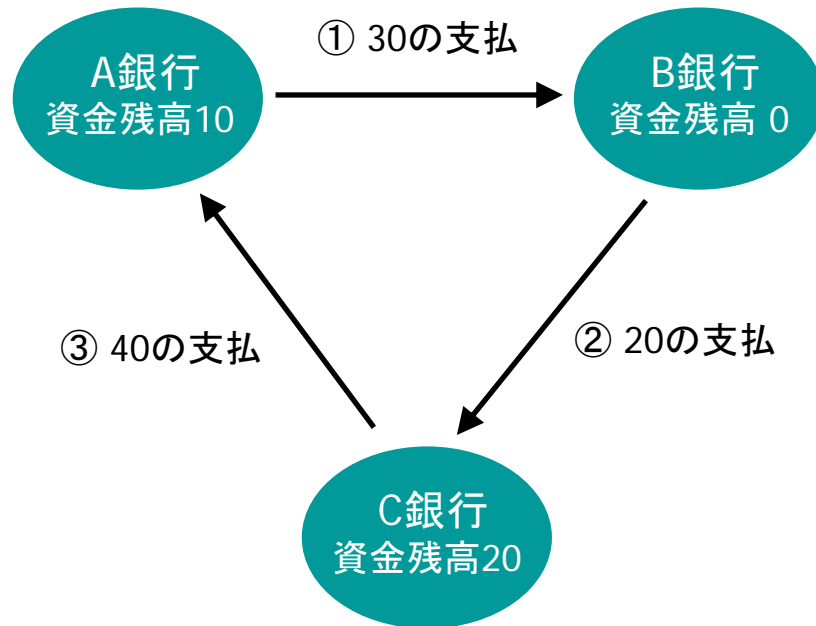
光に透かすと、すき入れられた3本の縦棒が見えます。従来のすかしよりも、パソコンやカラーコピー機等で再現しにくいものです。



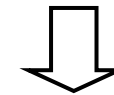
# RTGSと「すくみ」の問題

(図表 6)

## 現在のRTGS



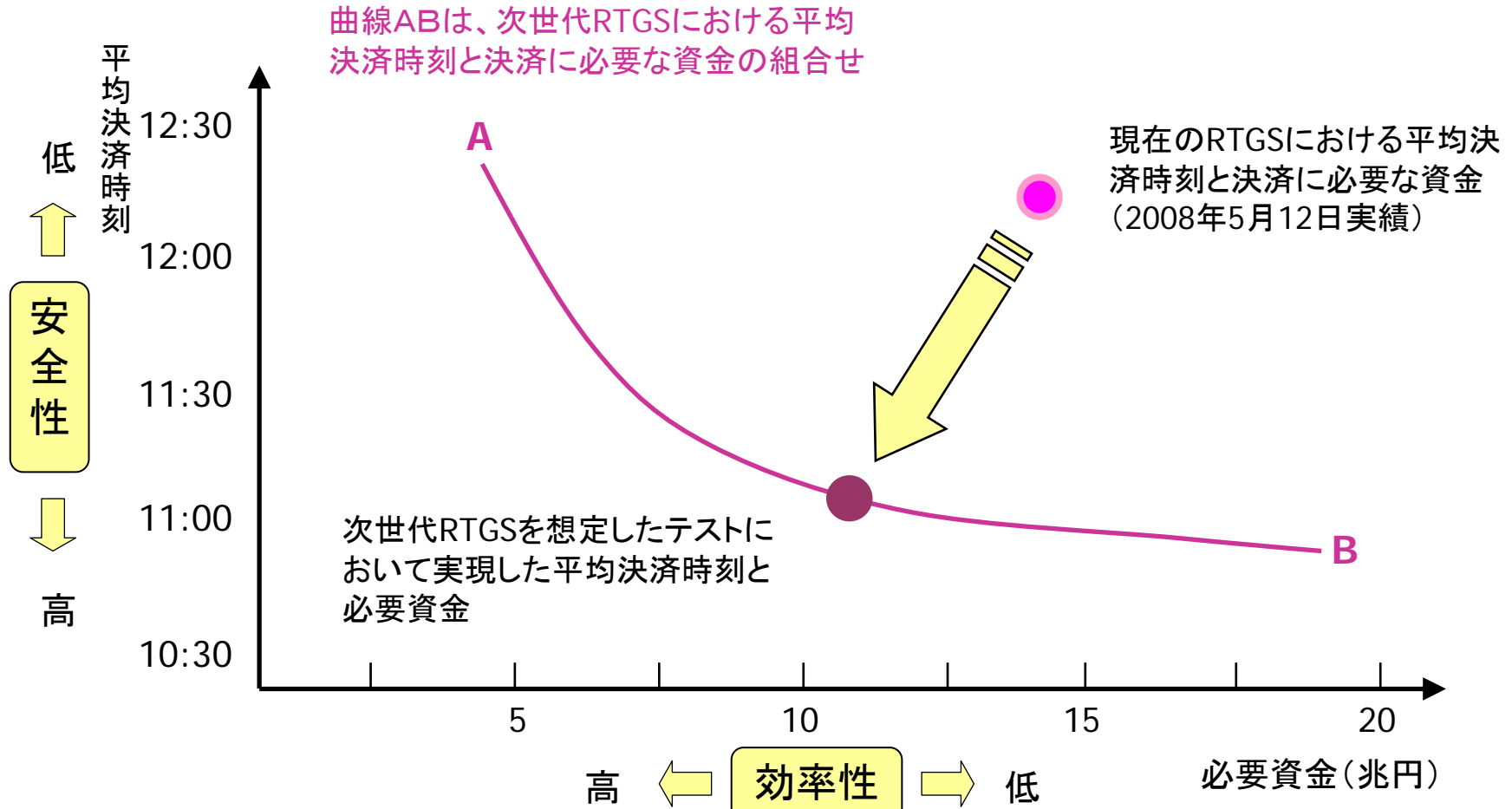
- ・各銀行は、支払指図を行う場合には、支払金額以上の手許資金を用意する必要。
- ・左のケースでは、いずれの銀行も資金残高が不足。
- ・各銀行が、相手からの入金を待って支払指図を行おうとすれば、「すくみ」が発生し、①～③のいずれの決済も行われない。



## 次世代RTGS

- ・各銀行は、十分な手許資金がなくても、日銀ネット内に支払指図を待機させることが可能。
- ・相手からの入金予定資金を支払原資に含めたうえ、同時に決済できる支払指図の組合せを見つけ出し、これを実行する。
- ・左のケースでは、①～③の決済を同時に行うことが可能となり、「すくみ」は生じない。

## 次世代RTGSにおける金融機関間決済の安全性と効率性



\* 次世代RTGSでは、現在14時30分に時点ネット決済されている外国為替円取引の決済の一部も即時グロス決済に変更される。



(図表 8)

## 住宅ローンの証券化

